

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査報告(その9) —空襲・原爆等の寺院被害3—

新田光子 (戦時被災等調査委員会委員
「戦時調査室」調査担当)

渡辺慶子 (「戦時調査室」調査研究員)

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査につぎまして、引き続きご報告させていただきま

す。前号「6月号」のテーマは、「空襲・原爆等の寺院被害」でしたが、今号も調査票の回答集計ならびに回答事例のご報告をいたします。

1、「疎開」・「建物疎開」 について

郵送調査の質問で、(問21)「昭和18年から『疎開』がはじまりますが、貴寺院は『建物疎開』の対象になりましたか」と尋ねましたところ、「対象になった」という回答は、198ケースでした。

「疎開」や「建物疎開」について、少し説明させていただきます。

戦時中、空襲を想定してとられた主要な対策のひとつが、「疎開」でした。「疎開」は、「建物疎開」「人員疎開」「物資疎開」など、いずれも広範囲に実施されましたから、全国の寺院への影響が大き

なものだったことが十分推測できます。

「建物疎開の対象になった」の回答では、「その結果どうになりましたか、具体的に教えてください」という問いかけをさせていただきましたので、どういった疎開であったのか、概要が把握できるものでした。以下の「2」では、回答事例のいくつかをとりあげさせていただきます。なお、この設問に対する回答には「建物疎開」に該当しないものが含まれていて、「人員疎開」や「物資疎開」に該当した回答が含まれていました。

調査票の他の質問項目で、a「戦争末期には、空襲の被害をさけるため、ご本尊や仏具を疎開させる寺院もありました。貴寺院はどうでしたか」、b「貴寺院の子弟は、『学童疎開』の対象になりましたか」、あるいはc「『学童疎開』の受け入れ先になりましたか」と質問しました。戦争中の「疎開」は、寺院への影響・関わりが非常に大きかったと思われることから、「物資疎開」や「人員疎開」についても複数の問を設けましたが、上記a

の「ご本尊や仏具を疎開させた」については207回答、bの「寺院子弟が学童疎開の対象になった」については96回答、そしてcの「学童疎開の受け入れ先になった」については335回答を得ました。詳しくは、次号以降でご報告いたします。

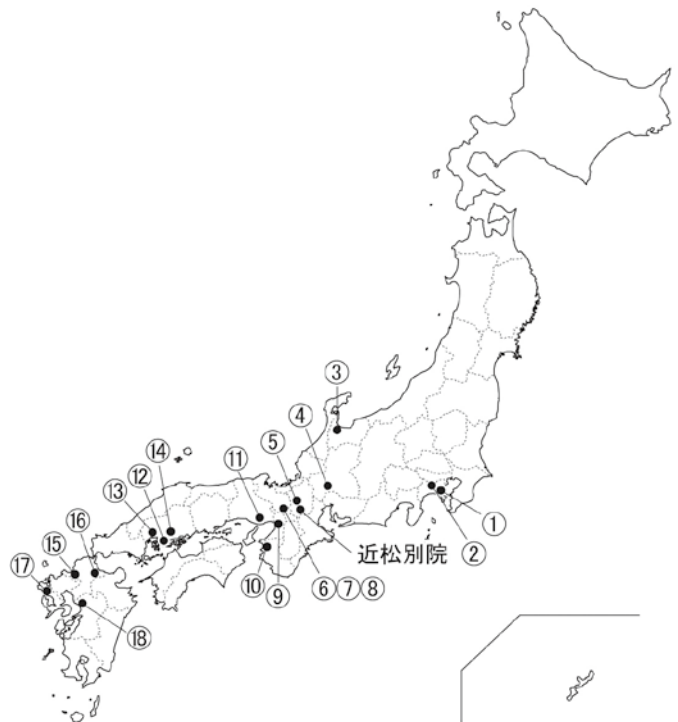
以下では、「建物疎開」の対象になった寺院回答をとりあげたいと思います。

2、「建物疎開」の対象になった寺院

「建物疎開の対象になった」という回答では、「図表1」のような記述でご回答をいただきました。

「建物疎開」は、1944年に対象となった寺院もありますが、「図表1」とおり、ほとんどが1945年に疎開対象となり、なかには「寺院⑮」のように、「取りこなし途中で終戦になった」寺院もありました。

対象寺院の多くは戦後に建物を再建することができましたが、「廃寺」となっ



「建物疎開」事例寺院の分布

た寺院もありました。大津市札ノ辻の光現寺（寺院⑤）は、近松別院の北側隣接地に位置していて、別院とともに1945（昭和20）年7月に「防空法」により破却されました。

光現寺本尊は、親戚寺院である浄宗寺

に納められました。戦後、『復興計画並びに同意書』が残されていますが、光現寺は今日まで復興できていません。^{注1}

図表1 「建物疎開」の主な回答事例

寺院	教区	疎開時期	疎開の状況・戦後の状況
①	東京	1944年	1944年に取り壊されて、戦後になって現在地へ戻った。
②	東京		
③	高岡	1945年5月	戦争末期(1945年5月)、建物強制疎開の命令により、付近の民家数十軒とともに本堂・庫裏等が破壊された。戦後、移転先で縮小規模で本堂を再建した。その後の境内地拡張・増改築(1989年)により現在の姿になった。
④	岐阜	1945年8月上旬	避難場所確保のため、鐘楼、茶室などが取り壊された。
⑤	滋賀	1945年7月1日	「防空法」に基づき破却された。
⑥	京都	1945年3月	1945年3月に建物疎開にあい、同年6月に現在地(当時、説教所)が売りに出ていて、それを購入した。その後少しずつ増改築を繰り返し、1986年9月に全面改築をして現在に至る。
⑦	京都	1945年3月	1945年3月、京都第二次建物疎開により、本堂・土蔵・庫裏・長屋・宝蔵・門などすべての寺院の建物(敷地面積約180坪)が取り壊され道路と化した。疎開票が来て10日ほどで取り壊し工事が始まった。
⑧	京都	1945年8月	寺の北側の新花屋町通は堀川通と烏丸通を結ぶ消防道路として終戦数日前に建物疎開で急造された道。道路南側まであった境内及び道路にかかる部分の建物の3分の2が刃物で切ったように失われた。
⑨	大阪		寺の前の道路名が今でも「疎開道路」という。
⑩	和歌山	1945年7月	1945年5月、寺院が重要施設である小学校に隣接していたため、戦時建物疎開の対象に決定した。寺院建物と借屋5軒の取り壊し準備中、7月9日のB29による空襲で全焼した。
⑪	兵庫		強制疎開で更地にされ、引越した先が空襲にあった。戻った場所は不正に占拠され長屋に仮住まいで、敗戦まで仏具は加古川の親戚に預けていた。戻った場所は不正に占拠され長屋に仮住まいの長屋が空いたので、そこに移転した。
⑫	安芸		道路拡張のため建物疎開となり、2か所ほど転々とした。戦後民家を改築し、その後改築を重ね、1987年現在の本堂、庫裏(コンクリート)が完成した。
⑬	安芸		山門、鐘楼が解体された。
⑭	安芸		本堂の一部、母屋の一部。
⑮	福岡		「軍令第一次強制疎開」により公会堂に強制疎開させられた。戦後、そこを払い下げてもらい寺として使用した。
⑯	大分	「不明」	本堂・庫裏が取り壊しとなり、山門横にて仮住まいをしていたと聞いている。
⑰	長崎		軍により本堂が取り壊された。
⑱	熊本	終戦直前	取りこわし途中で終戦になり、建物を復元修理した。



資料1 建物疎開以前の近松別院での行事風景（近松別院提供）

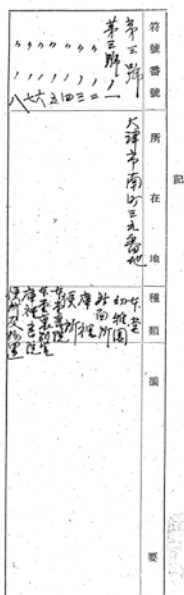
3、「建物疎開」事例の 近松別院

近松別院は、前述のとおり「建物疎開」対象となりました。

滋賀県庁資料館には、同別院本堂・書院・庫裏の明治初めの図面が「第一回県会開催地」として展示されています。こ

譲渡令書

住所 滋賀県野洲郡野洲町大谷光昭
氏名 大谷光昭
右所有ニ係ル左記建築物ハ建物疎開事業施行ノ爲必要ニ付
昭和二十年七月拾七日迄ニ之ヲ滋賀縣ニ讓渡スベシ
右防空法第五條ノ十ノ規定ニ依リ命令候也
昭和二十年七月五日
滋賀縣知事 稻田周一



資料2 譲渡令書
（滋賀教区野洲組覚明寺住職・宇野哲哉師提供）

うした由緒ある建物でしたが、1945（昭和20）年7月5日「第一次強制疎開」の「防空地」対象となり、同月20日には解体されてしまいました。^{注2}

「軍のトラックで引き倒され、廃材は軍のたきつけにされました。1981（昭和56）年、滋賀教区の門徒により再建されました」と、当別院から回答をいただきました。「建物疎開」前の写真（資料1）「譲渡令書」（資料2）は、当別院関係の貴重な記録資料です。

4、直属寺院の 空襲・原爆被災状況

空襲被害を防ぐために「建物疎開」の対象となった近松別院ですが、別院・教堂など直属寺院で実際に空襲や原爆で被災した寺院は、全国各地に及びました（「空襲・原爆被災の直属寺院分布」）。

空襲・原爆による被災は16寺院にのぼり、当時日本全国に存在した59の別院・教堂など直属寺院のうちの3割近くの割

合で被災しました。その被災状況の概要は、「図表2」のとおりです。

注1 直林不退『大津浄土真宗寺院史』

永田文昌堂、2004年。

注2 『近江に生きる浄土真宗と民衆——滋賀教区百二十年史——』滋賀教区基幹運動推進委員会、2004年、『宗報』2015年7月号参照。



空襲・原爆で被災した直属寺院の分布

注3 「図表2 直属寺院の空襲・原爆被災状況」作表にあたっては、『岐阜別院史』本派本願寺岐阜別院、1968年、『広島原爆戦災史』広島市役所、1971年、『徳島市史 第一巻 総説編』徳島市役所、1973年、『高松空襲戦災誌』高松市役所、1983年、『越中念仏者の歩み』永田文雄、1984年、『写真で見る本願寺富山別院の歩み』2016年、「新たな始

まり 直轄寺院・直属寺院紹介」1頁59『宗報』（2014年8月号）2018年7月号）などを参照。

戦時調査室では、引き続き寺院の戦争に関わる記録資料を蒐集しております。記録資料とは、具体的には寺院の戦争被害前の写真・被害後の写真、公式の被災記録・証明書、新聞記事、区市町村史記事などです。

調査は「戦争と平和の問題」という視点から各寺院の歴史的事実を記録にとどめることを目的にしております。次号『宗報』8月号では「学童疎開と寺院」をテーマに、調査票集計結果及び、これまでご提供いただきました寺院記録資料をご紹介します。

この調査をとりまとめた「宗門寺院と戦争・平和展」（仮称）は、今年度2021年11月20日から12月8日までの期間で開催を予定しております。

引き続き、ご理解ご協力をお願いいたします。

図表2 直属寺院の空襲・原爆被災状況(2021年5月までの寺院回答・文献資料で作成)

寺院名	被災月日 (いずれも1945年)	被災前後の状況	本堂再建など戦後の動き、その他
①仙台別院	7月10日	境内全焼。法物や記録などは全て焼けたが、御本尊の阿弥陀如来像は大火から唯一焼失を免れた。	「2年後には跡地に仮の本堂が再建された」「1950年、元常盤丁(現在の支倉町)への移転を決めた」「1959年に現在の鉄筋造りの本堂を落成」(『宗報』2014年4月号)。
②富山別院	8月2日	本堂など建物ほとんど焼失。	門信徒にとつての念仏の殿堂が焼失したことによって、心の支えになるものが失われた。 「1945年8月15日の敗戦の日からは別院焼け跡に仮小屋を建てて、別院職員が毎日勤行を続けた」(『写真で見える本願寺富山別院の歩み』)。 「1946年8月1日、仮本堂再建し、遷仏を行う」(1965年3月25日、富山別院本堂再建、起工式行方) (『越中念仏者の歩み』)。
③福井別院	7月19日	全て焼失。	「1948年6月28日、福井をおそったマグニチュード7.1の地震により、別院は空襲後ようやく再建した仮本堂を失う」(1963年、本堂の再建) (『宗報』2014年9月号)。
④岐阜別院	7月9日	類焼により本堂、対面所、書院、庫裏、他焼失。	主要堂宇の焼失により寺院としての活動がほぼ停止。 「1950年4月18日に上棟式執行」「焼残りの在方詰所に、疎開先の真龍寺より御本尊を迎えて安置し、これを仮本堂とした」(『岐阜別院史』)。
⑤名古屋別院	5月17日	本堂・庫裏・書院・中門・御殿など31棟、延べ面積3761.8㎡(1139.94坪)。	本堂が戦火で焼失したため、幼稚園舎を仮本堂として使用し、報恩講などを勤めた。 「1947年から6年間、境内の一部を『大須球場』に貸した」(『宗報』2013年8月号)。 1972年4月、本堂再建。
⑥三河別院	7月20日	岡崎大空襲にて、全て焼失。本堂、庫裏等建物を全焼した。	2020年6月一般寺院化。
⑦旧伊勢教室	7月20日	全て焼失。	
⑧津村別院	3月13、14日	本堂に焼夷弾2、300発が落とされ、対面所へも約100発ほどが命中、二尊堂をはじめ、その他の建物も全焼した。	「1951年には仮本堂が完成したが、事故により全焼」「1964年本堂再建」(『宗報』2013年10月号)。
⑨鷺森別院	7月9日	全て焼失。	「1948年、本堂再建」(『宗報』2015年5月号)。
⑩旧徳島教室	7月4日	全て焼失。 「7月4日の大空襲による教室所在地である徳島市東富田地区の戦災罹災率は81%」(『徳島市史 第一巻 総説編』)。	
⑪旧高松教室	7月4日	「7月4日、高松空襲にて焼失」(『高松空襲戦災誌』)。	

寺院名	被災月日 (いずれも1945年)	被災前後の状況	本堂再建など戦後の動き、その他
⑫高知別院	7月4日	「7月4日、大空襲によって高知市内の多くの建物とともに高知別院も焼失」(『本願寺高知別院参拝のしおり』)。	1953年、近くから本堂を移築。
⑬広島別院	8月6日	「本堂及び他の建物も全壊に近い被害であった。本尊及び法室は疎開していた。輪番など5人が即死し、10人が負傷した」(『広島原爆戦災誌』)。	1946年5月、焼跡に仮堂を完成した。 1964年10月、本堂再建。
⑭門司教堂	6月29日	本堂・庫裏・保育園園舎が全焼。御本尊は無事に持ち出された。	「1973年6月2日、落慶法要」(『宗報』2018年7月号)。 再建までの間に多くのご門徒が他寺院に移った。
⑮大牟田別院	7月27日	全て焼失。	1949年4月13日、寺地移転。三井鉱山株式会社の所有地、大牟田市出雲町2番と交換。1984年、現本堂並びに納骨堂を建立。納骨堂は後年増設を行う。
⑯鹿児島別院	4月8日、 6月17日	1945年4月8日の空襲・艦載機爆撃で別院事務所・書院・香雲閣・役宅・総会所が破壊焼失した。 6月17日の大空襲・B29の焼夷弾により、本堂・階段・山門・鐘楼などの全ての建物が焼失した。大正会館と納骨堂(中は蒸し焼き)のみを残して大加藍が一夜にして瓦礫と化した。防火造りの大正会館は残っていた職員が類焼を食い止めた。	大正会館を仮本堂とする。宿舎がないため、会館の一部を利用し職員が住む。 「1949年には仮本堂に加え書院と鐘楼を新築」「1982年本堂再建」(『宗報』2013年11・12月合併号)

記録資料のご提供・お問い合わせ先

Tel/075-354-5087
Fax/075-354-5360
Mail/senji-chousa@hongwanji.or.jp

【戦時調査室】

開室時間：火・水・木 10時～12時、
13時～16時(宗務所休日は除く)
〒600-8349
京都市下京区堺町92
浄土真宗本願寺派総合研究所内
「戦時調査室」

新田光子(戦時被災等調査委員会委員)
渡辺慶子(調査研究員)
牛島悠紀(調査研究員)